

公立大学法人 埼玉県立大学 理事長あいさつ

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また今日まで、長きに亘って支えてこられたご家族の皆様のお慶びもひとしおのことと存じます。心からお祝い申し上げます。

ところで、残念ながら今年度の卒業式・修了式を、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止せざるを得ませんでした。

式の中止は、卒業生・修了生の皆さん、御家族、関係者の皆様のお気持ちと同じく、まことに残念の一言につきます。学生生活の大きな節目である卒業式・修了式は、学生の皆さんや御家族、関係者にとって、また私ども教職員にとっても大変重要な行事です。

しかし、感染の可能性がゼロではないとの認識をふまえてはなりません。参加者の皆様の健康と安全の確保、そして感染拡大を防ぐという社会的責任の観点から、開催すべきではないとの結論に至りました。

卒業生、修了生の皆さん、および御家族の皆様のお気持ちを考えると、身を切られる思いですが、何とぞ御理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて、卒業・修了される皆さん、本日は学生、院生の身分を終え、これから新しい社会に羽ばたく門出の日です。皆さんが飛び立つ新しい世界では、新型ウィルスのようなマイナスの面に負けず、本学で培った専門性を活かし、チームの一員として活躍する場面も珍しくないでしょう。

また、保健医療福祉分野における技術革新や地域包括ケアシステム構築を通じて、世界でもっとも進化した高齢社会を生み出す「新しい世界」も皆さんを待っています。

現在、日本に住む人はとても長生きになりました。第一の理由としては、医学が進歩して治療のレベルが上がったことがあげられます。合わせて、栄養水準と衛生状態がよくなり、さらに近年では健康に関する意識が著しく向上しました。

加えて、2000年以降は、要介護になってもリハビリテーションや介護サービスなどの、適切なケアを受けられるようになった社会体制の整備も大きな理由です。

その結果、高齢者の一層の長寿化が進み、85歳以上人口は2035年には1,000万人を超えると予想されています。元気な高齢者が増えるだけでなく、虚弱な高齢者も確実に増加していきます。

健康寿命後の長生きとは、慢性疾患を抱え、ADLやIADLに問題があり、肺炎や骨折、また認知症のリスクを持った状態での生活でもあります。経済力や家族関係についての問題を抱える高齢者も多いでしょう。

一方で、少子化に歯止めをかけることは、わが国の存続にとって最大の課題であるとの認識も忘れてはなりません。

つまり、皆さんには、人類がつい最近まで経験した例がない、新しい世界での仕事や研究を通じて貢献する姿が求められているのです。

このような社会環境の下、埼玉県立大学で身につけた、他職種と連携して考え、実践する力、思いやる心を活用してください。

これからも自分を磨き、成長を続け、職場や地域を支える有為な人材として羽ばたいていただきたい、と心から願っています。

本学の卒業生、修了生は、人類史上初めての事態の中でも、これまでの学びから得た能力を活かして、果敢に挑戦してくれると信じています。自分自身で考え、困難を乗り越えた先には、大きな達成感と成長が待っているはずです。

埼玉県立大学の基本理念である「陶冶」、「進取」、「創発」を、これからの人生を考えるうえでの鑑となる言葉として改めてかみしめましょう。

様々な人にそれぞれの価値観を尊重しながら寄り添えるよう、人格を陶冶し、進取の気象をもって新しい事柄に挑戦し、多様な連携を通じて新たな価値を創造する。このような基本理念を持つ埼玉県立大学で学んだ数年間を心に刻み、プライドを持って自分の人生を切り開いていってください。

皆さんの今後のご発展を心から祈念して、お祝いの言葉といたします。

ご卒業、誠におめでとうございます。

令和2年3月13日

公立大学法人 埼玉県立大学
理事長 田中 滋